地域博物館を考える（２）ー調査研究と普及啓発活動ー

Consider of the regional museum 2: Research study and popularization activities

石原　正敏 [1]

ISHIHARA Masatoshi

（2025 年３月７日受付；2025 年３月 10 日受理）

新しい十日町市博物館（以下､｢新博物館｣）は､令和２（2020）年６月に開館した。新博物館の基本理念は､｢市民･来館者と共に考え、活動し、成長する博物館」である。十日町市の多様で豊かな自然と歴史・文化について、市民・来館者と共に探求し、保全・継承し、その価値を国内外に発信することをビジョンとしている。新博物館は生涯学習の拠点であるとともに、情報発信の拠点という機能を有し、４つの使命を掲げて活動している。

本稿では、資料の収集整理、保管（収蔵）、調査研究、普及啓発という博物館機能の中から、市内の文化財調査、市史編さん事業、歴史文化基本構想策定事業、文化財保存活用地域計画策定事業などの調査研究を取り上げる。また、新博物館開館後の約５年間を振り返るとともに、旧博物館を含めた関係データを再整理し、新博物館の現状と課題について検討することを本稿の目的とする。博物館活動においては「調査研究」､「情報発信と公開」が喫緊の課題であり、文化財の保存と活用においても、多くの課題がある。それらを踏まえ、課題解決に向けた方向性や方法等について考察する。

１．はじめに

十日町市博物館は､昭和 54（1979）年の開館以来､｢妻有地方の自然と文化」をテーマに､基本理念に掲げた「市民生活に密着した実物教育機関として、いつでも誰でも見たり、調べたりできる、市民のための博物館」を目指して様々な活動を展開してきた（竹内 2002 ほか）。その中で、重要有形民俗文化財「越後縮の紡織用具及び関連資料」（昭和 61 年指定）、同「十日町の積雪期用具 3,868 点」（平成３年指定）、火焔型・王冠型土器群をはじめとする国宝「新潟県笹山遺跡出土深鉢形土器 57 点（附 871 点）」（平成 11 年指定）などが生み出されている。そして、平成 26（2014）年から準備を始め、開館 41 年目となる令和２（2020）年６月に新博物館がオープンした。新博物館の基本理念は、「市民・来館者と共に考え、活動し、成長する博物館」である。十日町市の多様で豊かな自然と歴史・文化について、市民・来館者と共に探求し、保全・継承し、その価値を国内外に発信することをビジョンとしている。新博物館は生涯学習の拠点であるとともに、情報発信の拠点という機能を有する。

これまで、旧博物館における 40 年の活動の歩み、耐震改修・展示リニューアルから新博物館の建設への方向転換、新博物館の展示の特徴、開館後およそ１年半の運営にあたって留意したことなどについて紹介した（石原 2022）。合わせて、雪文化三館提携や信濃川火焔街道連携協議会など広域連携や地域連携の取り組み、文化資源の魅力増進の取り組みなどについて紹介するとともに、課題と課題解決に向けた取り組み等について考察した。前々稿では、資料の収集・整理・保管、調査・研究活動、実物資料･写真資料など資料の貸出、博物館実習･職場体験、史跡の保存と活用などについて紹介するとともに、現状と課題について考察した（石原 2023）。前稿では、調査研究活動における文化財課と博物館の関係性、文化財課の文化財保護と埋蔵文化財の関係性などについて、取り上げた（石原 2024）。しかし、市史編さ

1　十日町市博物館　〒 948-0072　新潟県十日町市西本町一丁目 448 番地９

ん事業（昭和 60 年度～平成８年度）、歴史文化基本構想策定事業（平成 27 年度～ 29 年度）、文化財保存活用地域計画策定事業（令和４年度～令和６年度）などの成果と地域博物館の関わりについては取り上げることができなかった。文化財の保存と活用、文化財施設の整備と活用、文化財の調査研究と活用という観点から、旧博物館の 40 年の活動と新博物館開館後のおよそ５年の活動を振り返るとともに、関係データを再整理し、新博物館の現状と課題について検討することを本稿の目的とする。

２．資料の収集整理と調査研究について

（１）博物館と文化財課の機能

前々稿で紹介したように、博物館には、いわゆる「表の顔と裏の顔」がある。資料の収集整理、保管（収蔵）、調査研究という仕事は裏の顔であり、展示や教育普及などが表の顔である。新博物館においては、文化財課と博物館という２つの組織が、車の両輪のごとく日々の業務に取り組んでおり、調査研究活動の多くを文化財課が担っている（石原 2023）。

旧博物館と新博物館の入館者数の比較は、表１のとおりである。また、平成 26（2014）年～令和５（2013）年度の収集資料については、表２のとおりである。旧博物館、文化財資料収蔵庫がほぼ満杯の状態であることを考えると、資料の収集整理、保管（収蔵）については見直しの時期にきているといえるだろう。旧博物館の開館が昭和 54（1979）年であり、文化財課の誕生が平成２（1990）年であることや文化財課の歩みは、前稿で紹介したとおりである（石原 2024）。次に十日町市における文化財の調査、市史編さん事業、「十日町市歴史文化基本構想」と「十日町市文化財保存活用地域計画」について紹介する。

（２）十日町市における文化財の調査

昭和 32（1957）年に、新潟県教育委員会による中魚沼郡の総合調査が実施されている（新潟県教育委員会編 1958）。歴史、民俗、考古、史跡、植物、地質の各分野にわたる学術調査であった。

その後、神宮寺「本尊・木造十一面千手観音立像」の新潟県文化財指定が契機となり、文化財保護の機運が高まり、昭和 47（1972）年４月に旧条例を全文改正して新たな十日町市文化財保護条例が施行されている。昭和 48（1973）年から昭和 53（1978）年には、立教大学の学校･社会教育講座学芸員課程の協力を得て、「十日町市における文化財の調査」が行われている。その成果は報告書としてまとめられている（表 10）。

『十日町市における文化財の調査Ⅰ』には「琵琶懸城址の実測調査」、「神宮寺の歴史と文化財」、「六箇の歴史と民俗」、『十日町市における文化財の調査Ⅱ』には「魚沼地方の市と縮市」、「原の民俗」、「市教育委員会収集の民俗資料目録」、『十日町市における文化財の調査Ⅲ』には「物産取調書と物産会･博覧会」、「上の山の民俗」、「市教育委員会収集の民俗資料目録」、『十日町市における文化財の調査Ⅳ』には、「上杉氏、堀氏の移封とその検地」、「赤倉神楽」、「赤倉の冬の民俗」、「市教育委員会収集の民俗資料目録」、『十日町市における文化財の調査Ⅴ』には「鉢の石仏」、「石仏地区石造物資料目録」、「鉢の冬の民俗」、「木挽きの仕事と道具」、『十日町市における文化財の調査Ⅵ』には「魚之田川の民俗」、「水沢の水運と陸運」、「十日町の農村歌舞伎舞台－水沢地区の掛舞台－」、「水沢の漁撈」、「市教育委員会収集の民俗資料目録」、『十日町市における文化財の調査Ⅶ』には「神宮寺調査の報告」、「十日町組の回米について」が収載されている。これらの報告書に基づいて「神宮寺境内地・山林」や「鉢の石仏」は市の文化財に指定されており、民俗調査成果や収集資料は、旧博物館の資料として有効に活用されている。旧博物館の常設展示解説書の骨格をなしている。

７年にわたり市内各地で行われた調査が、十日町市の文化財保護および文化財行政に果たした役割はきわめて大きい。

（３）十日町市史編さん事業

昭和 61（1986）年から平成９（1997）年には、市史編さん事業が行われ、資料編８巻、通史編６巻が刊行されている（表 10 ～表 11）。市史編さん室は、旧博物館内に置かれた。「市史編さんの過程で寄贈あるいは寄託を受けた資料、博物館で収集した資料は３万点に達する。このほかに、個人所蔵資料でマイクロフィルムやコピーなどの複製を行ったものがある。これらの資料は、104 冊の資料目録にまとめられている」（丸山・佐野 1998）。博物館展示では、市史編さんの過程で調査・収集された数多くの資料と史実を広く市民の皆様に公開しようということで企画され、昭和 63（1988）年秋に「市史編さん資料展」、平成２（1990）年夏季特別展「市史編さん資料展－近世妻有俳諧の系譜－」が開催されて

いる（表３～表４）。また、博物館講座として「十日町を知るⅡ」、「自分たちの住むまちを知ろう」、「妻有・十日町地方の心をさぐる」、「妻有の人物史Ⅰ」、「妻有の人物史Ⅱ」、「太平記からの贈物ー信濃川中流域の中世ー」、「十日町市史を読むⅠー江戸時代の社会と人々ー」、「十日町市史を読むⅡー近･現代の諸相ー」などが開催され、市史編さん関係者が講師となった（表５～表６）。郷土の歴史や文化に親しむことは、地域を知ることであり、ひいては郷土への愛着と地域に住む者としての自覚を育むことでもある。地域博物館ならではの活動ではあるが、当時の講師の多くが故人となっていることから、世代交代及び次世代育成が急務であることは、改めて言うまでもない。

（４）「十日町市歴史文化基本構想」と「十日町市文化財保存活用地域計画」

第二次十日町市総合計画後期基本計画において、基本方針２「活気ある元気なまちづくり」の政策４「誰もが自由に楽しく学び多様な文化にふれあえるまち」として、「文化財の保存と活用の推進」をあげている。十日町市固有の歴史や文化を保存するとともに、国･県･市の指定･未指定に関わらず、その価値を幅広く捉え、文化財を積極的に活用する。また、十日町市博物館を拠点に文化観光の推進に取り組み、地域文化の魅力を国内外に発信して地域活性化を図ること、を施策の方針に掲げている。この中で、具体的な施策として、文化財の保存と活用については、①十日町市歴史文化基本構想に基づき、有形･無形の各種文化財の保存と活用を図り、広く情報発信し、「誰もが多様な文化にふれあえるまちづくり」を推進する、②日本遺産に認定された地域の文化・伝統ストーリーを国内外に発信し、地域の特色や歴史的魅力を伝えるなど、観光や産業分野とも連携しながら、文化観光の推進を図る、③文化財の総合的な保存と活用を図るため、文化財保存活用地域計画の策定を検討する、とある（石原 2022）。

十日町市歴史文化基本構想は、平成 27（2015）年度から平成 29（2017）年度の３か年で策定された。策定の目的について、「市域に分布する文化財に関して、各々の関連性や周辺環境も含めて総合的に把握し、市の歴史や風土の特徴を踏まえた方針の下、地域の歴史や文化の理解に欠くことのできない貴重な財産である文化財を、長期的かつ計画的に保存・継承・活用していく。そして、まちづくりに関連する市の他部局や市民と連携して各地域の個性あふれる魅力的なまちづくりを推進することを目的に、そのマスタープランとして、文化庁の策定指針に基づき文化財に関する基本的・総括的な構想となる「十日町市歴史文化基本構想」を策定する」とある（十日町市教育委員会文化財課編 2018）。この間に、既刊文献調査、アンケート調査、「雪と人々の暮らし」についての聞き取り調査、校歌・校章・名札の収集、現地調査などが行われている。

「究極の雪国とおかまちー真説！豪雪地ものがたりー」というストーリーが、令和２（2020）年６月に日本遺産認定を受けている。同年 11 月には、文化観光推進法に基づく十日町市の地域計画が国の認定を受けた。文化観光推進法は、文化についての理解を深める機会を充実させることで国内外からの観光客の来訪を促進し、文化観光の振興や地域の活性化を図る目的で令和２（2020）年５月に施行されている。十日町市の地域計画では、令和２（2020）年度～令和６（2024）年度の５年間にわたり、市内５つの文化観光拠点施設（新博物館、越後妻有交流館キナーレ、まつだい雪国農耕文化村センター「農舞台」、越後松之山「森の学校」キョロロ、清津峡渓谷歩道トンネル）と市内に点在する文化資源を結びつけた事業を実施する計画となっている（石原 2022）。

本市の文化財に関する基本的・総括的なマスタープランである「十日町市歴史文化基本構想」を踏まえ、そのアクションプランとなる「十日町市文化財保存活用地域計画」が、令和４（2022）年度～令和５（2023）年度の２か年で策定され、令和６（2024）年７月に国の認定を受けている。「計画期間は、令和６（2024）年度から令和 15（2033）年度までの 10 年間とし、上位計画である十日町市総合計画の内容の変更により、本計画と不整合が生じた場合や文化財を取り巻く社会的要因の変化、調査・整備等の進展、財政状況、また計画に搭載した事業の進捗状況等も踏まえ、必要に応じて見直しを行うものとする」としている（十日町市教育委員会文化財課編 2024）。

３．文化財施設の整備と活用

（１）博物館の機能

「博物館ハ世界中ノ物産、古物、珍物ヲ集メテ人ニ示シ、見聞ヲ博クスルタメニ設ケルモノナリ」これは、福澤諭吉が「西洋事情」で記した一節である。福澤は 1862 年に遣欧使節団の一員としてフランス、イギリス、オラ

ンダ等を視察し、わが国に「博物館」の意味を初めて伝えたと言われている。「集メテ（＝収集）人ニ示シ（＝展示)、見聞ヲ博クスル（＝教育)」という表現は正に的を射ている。博物館法第１章第２条で､「博物館」は「歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、展示して、教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関」と定義されている｡博物館を教育機関とする所以はここにある。教育機関としてのあり方とは別に、博物館法において博物館は研究機関であると規定している。博物館法第３条第１項には、その四に博物館の事業として「博物館資料に関する専門的､技術的な調査研究を行うこと」を掲げ、博物館の調査研究の重要性を述べている。この専門的な調査研究の担い手は学芸員である。学芸員については、博物館法第４条第３項に、博物館の専門的職員としての学芸員の位置付けが規定され､同第４項には「学芸員は、資料の収集、保管、展示及び調査研究をはじめ専門的事項をつかさどる」として、博物館の専門的な調査研究が主として学芸員に委ねられていることが明記されている（石原 2022)。

（２）博物館の世代論

伊藤寿朗は、第二次世界大戦後から 1980 年代までの博物館を大きく３つの世代に分けて説明した（伊藤 1991)。【第一世代の博物館】は「保存」を重視した博物館であり、「国宝や天然記念物など、稀少価値をもつ資料（宝物）を中心に、その保存を運営の軸とする古典的博物館」があげられる。そこではつねにモノが中心にあり、その保存が博物館の第一義的な目的となる。博物館法制定（1951）以前に成立した博物館や個人を顕彰した記念館などが該当する。【第二世代の博物館】は「公開」を重視した博物館であり、「資料の価値が多様化するとともに、その資料の公開を運営の軸とする現在の多くの博物館」があげられる。1960 年代末から開館した県立博物館や中規模の市立博物館などが該当する。【第三世代の博物館】は「参加・体験」を重視した博物館である。当時、伊藤は「（第三世代は）社会の要請にもとづいて、必要な資料を発見し、あるいはつくりあげていくもので、市民の参加・体験を運営の軸とする将来の博物館」とし、1980 年代前後に開館した博物館を対象とした。しかし、「第三世代とは期待概念であり、典型となる博物館はまだない」としている。

それから 20 年経過し、21 世紀を迎えて日本博物館協会は「対話と連携の博物館」という報告書をまとめた。ここに伊藤の第三世代を継承する【第四世代の博物館】として「対話と連携の博物館」がスタートすることになる。それは、「市民の参加・体験を深化させるため、博物館活動に関わる全ての『ひと・もの・こと』と対話し、連携する博物館」といえる。現在では、【第五世代の博物館】として「対話と連携を深化させ、さらに設置理念を再認識し、機能的分化の強化を図ると共に、地域振興･観光・教育・福祉と協働しながら利用者をもてなす複眼的な博物館」という考え方をする研究者もいる。

文部科学省は、「社会教育行政に必要な社会教育に関する基本的事項を明らかにすること」を目的として、３年ごとに社会教育調査を実施している。直近となる 2021（令和３）年度調査結果では、博物館数（博物館登録施設、相当施設、類似施設）は 5,771 館（2018 年度調査では 5,738 館）であった。全国では１市町村に平均 3.3 館の博物館があることになる。学芸員数は 9,036 人（2018 年度調査は 8,403 人）であった。前回調査から数は増加しているが、正規職員の割合が減少し、非正規職員の割合が増加する傾向にある。

（３）新博物館のめざす姿

第二次十日町市総合計画後期基本計画において、文化財施設の整備と活用について①十日町市博物館を歴史や文化にふれる文化観光の拠点として位置付けるとともに、縄文文化や日本遺産ストーリー関連施設の整備を行い、世界に向けてその魅力を発信する、②博物館の収蔵物などの文化財や、他館所蔵の国宝などの優良な文化財を活用した企画展を開催し、市民への教育普及活動を積極的に行う、③国宝出土地である笹山遺跡を中核に、国史跡「田沢・壬遺跡」や県指定「野首遺跡出土品」などの縄文遺跡の保存や活用を図る。また、「生きた歴史体感プログラム」など縄文時代を体験・体感できる、ソフトプログラムを充実させる、とある（石原 2022)。

新博物館は､かけがえのない地域の財産である「国宝･笹山遺跡火焔型土器群をはじめとした縄文文化」と「古代にまで歴史がさかのぼる織物文化」、これらを生み出す原動力となった「雪と信濃川の恵みと文化」を守り継承して、その魅力を国内外に広く情報発信する施設である。新博物館の使命として①市民の知的関心に応えるため、資料や情報を収集・保管、調査・研究、展示・普及

し、生涯学習の拠点としてその役割を果たす、②地域の歴史や文化に対する市民の理解を深め、より良い未来に向かって市民と共に新しい価値を創造する、③魅力ある財産として地域固有の歴史・生活文化・産業に光をあて、その活用を通した来館者との交流により地域振興に貢献する、④市民及び来館者と対話しながら共に成長し、博物館友の会、他の博物館・関係機関と連携して活動する、の４点があげられている。新博物館の機能として、「展示」、「教育普及」、「資料収集・保存」、「調査研究」、「情報発信・公開」、「施設の管理・運営」、「ホスピタリティ」の７項目があげられている（十日町市博物館編 2020）。新博物館の基本理念、ビジョン、使命、機能に沿うよう活動を活発に展開するとともに、文化財の保存と活用の計画的な推進を図っていく必要がある。７項目の機能の中では、「調査研究」、「情報発信と公開」が喫緊の課題であることは、以前にも指摘したとおりである。

新博物館の展示事業には企画展、特別展、特設展示のほか、まちの文化歴史コーナー HAKKAKE の展示などがある（表４、表９など）。企画展、特別展では常設展で表現できない部分を補うとともに、地域の歴史や文化にとって重要なテーマを選んで年数回開催している。博物館にとって生命線であり、調査研究に裏打ちされたものでなければ「意味」がなく、「深み」のない薄っぺらいものになることは改めて言うまでもない。また、美術展等の開催などが今後の課題と思われる。

調査研究を継続的に行い、新たな事実や価値を博物館活動に反映していくことが重要である。また、誰もが調べることができる生涯学習の拠点として情報を発信し、収集した地域資料や図書、調査研究の成果であるデータベースなどの公開に向け、さらなる努力を重ねていく必要がある。

４．おわりに

縁あって十日町市博物館に就職し、もう少しで 40 年が経とうとしている。笹山遺跡をはじめ幅上遺跡、樽沢開田遺跡、貝野沢田遺跡など 200 を超える遺跡の発掘調査や整理調査とともに、市史編さん事業、博物館の展示・講座・講演会など、多くの普及啓発活動に携わる機会を得た。笹山遺跡出土品の重要文化財指定や国宝指定、田沢・壬遺跡の国史跡指定に関わることができたのも幸いなことであった。

これまでの間に、阿部恭平、阿部敬、今井哲哉、小熊博史、小野昭、貝瀬香、笠井洋祐、金子和宏、川村知行、木村英祐、久保禎子、小林隆幸、小林昌二、小林達雄、小林徳、佐々木榮一、佐藤信之、佐藤雅一、眞田岳彦、佐野芳隆、菅沼亘、竹内俊道、高木公輔、髙橋由美子、滝沢栄輔、立木宏明、角田由美子、中村由克、新田康則、橋本博文、原田昌幸、林真子、平山育夫、廣野耕造、星野元一、松村実、宮尾亨、山田正毅、山本哲也の各氏をはじめ、多くの方々よりご指導・ご教示をいただいた。また、故人となられたが、赤澤計真、甘粕健、石澤寅義、今福利恵、大島伊一、岡田稔、上村政基、小島俊彰、小林宏行、佐野良吉、島田靖久、須藤重夫、滝沢秀一、田村喜一、田村達夫、土肥孝、戸田哲也、冨澤孝之、中澤幸男、波形卯二、樋熊清治、平野幸作、廣田永二、藤本強、丸山克己の各氏から種々ご教示をいただいた。文末ではあるが記して厚くお礼申し上げる。

なお、紙数に限りがあるため調査研究活動における埋蔵文化財資料や合併前の旧町村所蔵資料などの調査成果と地域博物館の関わりについては稿を改めて検討の機会をもちたい。十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書（９～75 集）をはじめ引用・参考文献の多くを割愛した。お許しいただきたい。（2025 年３月 10 日脱稿）

引用・参考文献

佐野良吉 1982『随想妻有郷－十日町地方の歴史と民俗－』国書刊行会
佐野良吉 1990『妻有郷の歴史散歩』国書刊行会
佐藤雅一 2007「地域造りとしての文化財の保護と活用」『魚沼新報』＜ダイジェスト版＞
安高啓明 2014『歴史の中のミュージアム－驚異の部屋から大学博物館まで－』昭和堂
石原正敏 2010「豪雪地帯に生まれた文化－火焔土器の世界－」『知っておきたい新潟県の歴史』新潟日報事業社
石原正敏 2015「「火焔型土器のクニ」から－笹山遺跡の土器、土製品や石器類」『東北学 05』はる書房
石原正敏 2018『国宝「火焔型土器」の世界　笹山遺跡』新泉社
岩城卓二・高木博志編 2020『博物館と文化財の危機』人文書院
石原正敏 2022「ミュージアム・マネジメントの実践（１）－新十日町市博物館の取り組み－」『十日町市博物館研究紀要　第１号』
石原正敏 2023「ミュージアム・マネジメントの実践（２）－新十日町市博物館の取り組み－」『十日町市博物館研究紀要　第２号』
石原正敏 2024「地域博物館を考える（１）－調査・研究と普及活動－」『十日町市博物館研究紀要　第３号』
竹内俊道 2002「地域に根ざした博物館活動を目指して」『博物館研究』第 37 巻第６号　日本博物館協会
丸山克巳・佐野芳隆 1998「文書資料の管理と活用－パソコンを利用した資料検索の試み－」『文化財課年報２』十日町市教育委員会文化財課
新潟県教育委員会編 1958『新潟県文化財年報三 妻有郷－新潟県中魚沼郡学術調査報告書』

表１　旧博物館と新博物館の入館者数の比較

年　度	大人			小人			合計		備考
	個人	団体（数）		個人	団体（数）			（　）内団体数	
昭和54（1979）									
昭和55（1980）									
昭和56（1981）	7,401	8,215	(235)	3,387	1,997	(43)	21,000	(278)	
昭和57（1982）	10,309	6,108	(226)	3,875	2,841	(56)	23,133	(282)	
昭和58（1983）	10,291	5,651	(205)	2,854	2,478	(52)	21,274	(257)	
昭和59（1984）	11,396	7,574	(205)	2,383	2,273	(34)	23,626	(239)	
昭和60（1985）	7,266	5,559	(179)	3,120	1,370	(29)	17,275	(208)	
昭和61（1986）	8,787	5,700	(205)	6,755	3,551	(57)	24,793	(262)	
昭和62（1987）	7,434	6,637	(219)	3,904	2,030	(40)	20,005	(259)	
昭和63（1988）	10,274	4,718	(152)	3,207	1,869	(35)	20,068	(187)	
平成元（1989）	11,442	3,850	(123)	3,538	1,972	(41)	20,802	(164)	
平成２（1990）	10,166	3,075	(126)	2,191	1,116	(22)	16,548	(148)	
平成３（1991）	9,899	5,837	(189)	3,297	1,819	(38)	20,852	(227)	
平成４（1992）	10,460	4,908	(126)	3,099	2,138	(46)	20,605	(172)	
平成５（1993）	10,074	4,958	(134)	3,268	1,943	(45)	20,243	(179)	
平成６（1994）	9,678	2,889	(94)	2,956	1,623	(41)	17,146	(135)	
平成７（1995）	11,979	3,819	(115)	2,365	1,879	(53)	20,042	(168)	
平成８（1996）	11,255	4,592	(124)	2,011	1,598	(40)	19,456	(164)	
平成９（1997）	12,890	4,467	(130)	1,641	2,258	(62)	21,256	(192)	
平成10（1998）	13,718	2,985	(85)	1,803	1,350	(33)	19,856	(118)	
平成11（1999）	21,337	5,540	(159)	2,811	3,394	(65)	33,082	(224)	
平成12（2000）	15,252	5,150	(134)	1,886	2,072	(49)	24,360	(183)	
平成13（2001）	12,162	3,365	(91)	1,561	1,903	(42)	18,991	(133)	
平成14（2002）	11,368	2,230	(60)	1,720	1,429	(32)	16,747	(92)	
平成15（2003）	11,313	2,981	(81)	1,624	1,495	(27)	17,413	(108)	
平成16（2004）	8,568	2,715	(77)	1,470	1,075	(31)	13,828	(108)	
平成17（2005）	10,829	1,458	(46)	1,398	2,431	(54)	16,116	(100)	
平成18（2006）	14,322	2,771	(76)	1,776	2,627	(69)	21,496	(145)	
平成19（2007）	11,663	2,384	(78)	1,356	3,294	(83)	18,697	(161)	
平成20（2008）	10,617	2,261	(67)	1,519	2,668	(55)	17,065	(122)	
平成21（2009）	12,766	1,969	(47)	1,840	2,141	(49)	18,716	(96)	
平成22（2010）	10,778	1,431	(43)	1,964	1,661	(41)	15,834	(84)	
平成23（2011）	9,511	1,169	(33)	1,542	1,508	(45)	13,730	(78)	
平成24（2012）	15,493	1,138	(38)	2,001	1,630	(39)	20,262	(77)	
平成25（2013）	11,241	806	(26)	1,250	1,461	(34)	14,758	(60)	
平成26（2014）	12,518	768	(30)	1,063	1,510	(38)	15,859	(68)	
平成27（2015）	15,552	1,114	(36)	1,636	1,344	(27)	19,646	(63)	
平成28（2016）	12,636	1,232	(37)	1,164	1,405	(32)	16,437	(69)	
平成29（2017）	12,033	962	(32)	1,251	1,126	(26)	15,372	(58)	
平成30（2018）	13,198	780	(27)	1,374	1,045	(32)	16,397	(59)	
令和元（2019）	9,537	1,042	(32)	1,195	566	(8)	12,340	(40)	
総　計	447,373	134,808	(4,122)	89,055	73,890	(1,645)	745,126	(5,767)	

年　度	一般		中学生以下	合　計	備　考
	有　料	免　除			
令和２（2020）	17,170	3,982	4,784	25,936	
令和３（2021）	14,957	4,783	4,142	23,882	
令和４（2022）	15,867	8,186	3,682	27,735	
令和５（2023）	15,290	8,427	3,204	26,921	
総　計	63,284	25,378	15,812	104,474	

表２　資料の収集（平成 26 年度～令和５年度）

年度	件数	資　料　名
平成26年度	33	ショイダル、餅ののし板ほか、弓張り、ガリ版、オヒキガネほか、チョウナほか、雪まつりパッケージたばこ、中国紙幣ほか、おさなみ織の着物ほか、膳椀ほか、妙高山関山神社の火祭りのワラジ、着物の端切れ、バケツ、吸物椀ほか、蓄音機ほか、紋付の着物ほか、信濃川で使用したイカリほか、古書籍・千人針ほか、越後縮のミズトオシほか、写真データほか、帝国日本里程細図、一斗マスほか、ネクタイ、旧滝文資料、金子借用証文などの古文書、刀ほか、羽織ほか、旧睦織物で使用していた首里織帯の紋栓、中條平作家文書（仙田）、藕糸織、カケヤほか　など
平成27年度	34	化粧まわしほか、タヌキ剥製ほか、軍隊手帳ほか、棒秤、香炉、漆塗り椀ほか、庚申供養道具ほか、天秤ばかりほか、雪下駄、従軍記章之證ほか、古書籍ほか、昔の洗濯機ほか、舟箱形シャトルほか、土地名寄帳ほか、『越能山都登』復刻版ほか、コモヅチほか、ダイヤル式電話機ほか、昔の着物ほか、電気コタツほか、旧中里村関係古文書、昔の教科書ほか、掛軸「墨竹図」、浪曲のレコード、古文書・巻物、大賀一郎博士関連資料、蓄音機ほか、農家組合関係文書　など
平成28年度	29	農具ほか、昔の紙幣、昔のカメラ、足踏みミシンほか、ユキノコギリ、和紙の鯉のぼり、出征旗、ケシツボほか、着物、桶屋道具、頼母子講資料、昔の電気コタツ、日本刀ほか、箪笥、スクリーン型枠、掛軸、スゲボシ、尋常小学校唱歌テープ、旗、ガス炊飯器、シュロボシほか、屏風、古文書、明石ちぢみサンプル帳、茅葺民家写真、写真アルバムほか　など
平成29年度	21	イットマスほか、棒バカリ、赤岩小学校歌資料、マジョリカお召ほか、昔の新聞、梵字Ｔシャツ、岩石・鉱物標本、ジザイカギほか、屏風、硯ほか、巾治家資料、モンペほか、雪ゲタほか、古文書・古典籍、書籍、ザグリ機ほか、版木ほか、駕籠ほか　など
平成30年度	18	マジョリカお召ほか、ちゃぶ台ほか、庚申講道具、黒絵羽織ほか、古文書、倉俣小学校歌楽譜、来翰箱ほか、川西郷土読本ほか、火焔型土器模造品、古書籍ほか、ヤバサミ、昔の写真、生糸、掛軸、携帯白黒テレビ、紡織具　など
平成31年・令和元年度	11	着物（しぼり紺地長着、銘仙ほか）、庚申講道具、昔のステレオ、六角行燈、古文書　など
令和２年度	36	スッポン、コスキ、ロウソクタテ、ゼンマイ採り用着物、道仕切りの木札、原町五旒旗、松代地域の民話音声資料（カセットテープ）などの民俗・民具資料、黒絵羽織、紅型・小紋等の型染め資料、マジョリカお召・見本帳などの着物資料、雪景色・文化財・市内風景・祭りなどのポジフィルム及びプリントなど写真資料、飯山線開設関係文書・古文書・古典籍などの歴史資料、十日町小唄水墨画（中山晋平書・水谷八重子画）及び掛軸類など美術資料、十日町森林総合研究所観測記録及び中里養魚センター観測記録などの記録資料　など
令和３年度	116	民具資料（文政十三年間棟札、川舟の櫂、イカリ、シュロボシ、スカリ、スッペ、高下駄、炭火アイロン、蓄音機、SP盤レコード、コリントゲームなど）、十日町産地の着物資料（十日町明石ちぢみ、マジョリカお召、黒絵羽織、縫取縮緬など）、芸能関係資料（上川手歌舞伎上演用具、中尾㊀面神楽上演用具）、美術資料（永井白湄筆・十日町小唄歌詞掛軸、中山龍次筆・諏訪大神掛軸、明屋有照画賛・太子講掛軸）、古文書等歴史資料（安養寺・古澤家資料、上野・星名家資料、上蝦池・庄屋家資料、清水村・庄屋家資料など）、昔の写真及び写真画像CD（十日町雪まつりなど）、十日町森林研究所研究員資料（記録写真・日記・書簡等一括）　など
令和４年度	40	考古資料（土器・石器）、古文書（縮問屋松村屋御召縮資料、正覚院資料、高島村庄屋家文書）、民具（酒徳利コレクション、百万遍の数珠・鉦等一式、越後縮生産用具など）、着物資料（マジョリカお召の反物、昭和20～30年代の織物見本切綴）、絵画（明屋有照賛仏画掛軸）など
令和５年度	23	古文書等歴史資料（東善寺・喜多庄屋家文書、山本遠山森林生産組合資料、宮下町水車六人衆資料）、民具（明治31年牧畑集落十二神社幟旗、大白倉高札、水沢商家資料、庚申講資料、花見用携行重箱）、着物資料（御召細目格子縮緬、紬絣）など

表３　これまでに開催された企画展・特別展（移動展・巡回展を含む）（１）

年　　度	特別展・企画展等の名称（期間）
昭和54（1979）	「越後のちぢみ展」（4/27～5/20）、「木の文化展」（8/4～31）、「星襄一遺作展」（10/12～14）、「菊と刀展」（10/27～11/4）、「雪の民具展」（2/7～29）
昭和55（1980）	「明石ちぢみ展」（5/1～6/8）、「新潟県の画家たち展」（8/9～17）、「庚申さまと庚申信仰展」（10/26～11/9）、「雪と雪の民具展」（2/13～22）
昭和56（1981）	「越後ちぢみと明石ちぢみ展」（5/3～6/7）、「日本の郷土玩具展」（11/1～8）
昭和57（1982）	「妻有の画人たち展」（8/25～29）、「妻有の文化財展」（10/30～11/7）
昭和58（1983）	「妻有の衣食住展」（8/10～31）、「近代日本洋画の巨匠たち展」（11/1～6）
昭和59（1984）	「日本画、洋画、巨匠たちの世界展」（9/1～5）、「明治、大正、昭和100枚の写真展」（10/20～11/4）、「目で見る十日町の歴史展」（11/11・中条公民館新座分館、2/8～17・下条公民館）
昭和60（1985）	「広重・東海道五十三次展」（9/1～5）、「全日写連写真展」（10/3～6）、「戦中・戦後のくらし展」（11/22～12/8）、「雪の造形写真展」（11/3・中条公民館大井田分館）
昭和61（1986）	「重文・越後縮資料展」（4/10～7/20）、「世界の大昆虫展」（8/26～9/7）、「女性をえがく展」（10/8～12）、「明治・大正・昭和写真展」（11/2～3・水沢公民館）
昭和62（1987）	「大正浪漫明石ちぢみの世界展」（4/9～5/17）、「信濃川の魚と漁法展」（8/23～27）、「妻有の画人たち展Ⅱ」（10/17～25）、「雪の中のくらし写真展」（2/12～14）、「小坂遺跡と縄文人のくらし」（10/25・吉田公民館鐙島分館）
昭和63（1988）	「冬の生活用具展」（4/30～5/29）、「デザイン亀倉雄策展」（8/21～28）、「市史編さん資料展」（10/8～16）、「越後縮名品展」（2/10～12）、「昔のくらし写真展」（10/23・吉田公民館名ヶ山分館）、「水沢地域の城と館と遺跡展」（11/3～6・水沢公民館他）
平成元（1989）	博物館開館・友の会設立10周年記念「池田満寿夫展」（10/21～29）、「妻有の百三十三番写真展」（11/5～12・水沢公民館他）
平成２（1990）	「妻有の職人と道具展」（4/28～5/20）、「市史編さん資料展－近世妻有俳諧と系譜展－」（8/11～9/2）、「雪の造形と文様展」（10/13～21）、「幅上遺跡速報展」（11/3・吉田公民館鐙島分館）
平成３（1991）	「十日町の積雪期用具展」（8/11～9/1、2/8～16）、「大新田遺跡の調査記録」（10/27・鐙島小学校）
平成４（1992）	「積雪期用具展」（4/25～5/31）、「竹久夢二展」（10/10～26）
平成５（1993）	「星襄一とスノリア展」（6/5～20）、「浮世絵名品展－中右コレクション」（10/9～25）、「カウカ平Ａ・Ｂ遺跡・高島南原Ａ・Ｂ遺跡調査記録」（10/31・鐙島小学校）
平成６（1994）	開館・友の会設立15周年／市政施行40周年記念「棟方志功展」（10/8～23）、「高橋喜平・雪の造形写真展」（2/16～20）、「中道・思川遺跡の調査」（10/30・真田小学校他）
平成７（1995）	「手工芸の美－編・組・刺繍三人展」（6/17～7/2）、「富士の写真家・岡田紅陽生誕100年記念展」（10/7～22）、「上梨子Ａ・Ｂ遺跡調査」（11/5・西小学校）
平成８（1996）	「発掘調査速報展－平成３～７年度分」（6/15～30）、「縄文の美－火焔土器の系譜」（9/28～10/27）
平成９（1997）	「十日町の文化財展」（5/17～6/8）、「中条地区の遺跡調査」（10/25～26・中条小学校）
平成10（1998）	「インド先住民族アート展」（ミティラー美術館共催・4/17～5/5）、「妻有のいしぶみ展」（10/6～11/15）、第50回雪まつり記念「高橋喜平写真展－雪花譜」（2/19～21）
平成11（1999）	笹山遺跡出土品国宝指定記念「縄文の美パートⅡ－火焔型土器の世界」（8/21～10/10）
平成12（2000）	「縄文の祭祀」（9/22～10/22）、「くらしの美　思い出の品々」（2/16～18）、「笹山遺跡とその出土品展」（6/3～4）
平成13（2001）	「民具からみた縄文の用具１－編・織用具と装身具－」（6/2～24）、「民具からみた縄文の用具２－食料調達と食事の用具－」（9/22～10/14）、「博物館収蔵資料展－越後縮を中心として－」（2/15～17）、「野首遺跡展」（11/4・下条公民館上新田分館）
平成14（2002）	「現代アートに挑戦するインド民族アートの世界展」（ミティラー美術館共催・4/26～5/19）、「きものでつづる十日町の歩み」（6/15～30）、雪文化三館提携10周年記念「北越雪譜と魚沼の風土」（10/26～11/10）、「博物館収蔵資料展－十日町のきものから－」（2/14～16）
平成15（2003）	全国大井田氏サミット10周年記念「大井田健一　父祖の地を描く」（5/17～6/8）、大地の芸術祭協賛「大地の息吹き－十日町の火焔型土器－」（7/20～9/7）、きもの歴史館開館記念「越後縮の文様と美」（10/4～28）、「収蔵資料展－暮らしを彩る着物と品々－」（2/20～22）
平成16（2004）	国宝指定５周年記念「国宝と地域の宝物－十日町の火焔型土器Ⅱ－」（6/1～30）、「博物館と友の会の四半世紀」（7/10～25）、市制施行50周年記念「十日町市50年の歩みと暮らし」（9/29～11/3）、火焔街道博学連携プロジェクト「子ども縄文研究展」（11/21～12/25）

表４　これまでに開催された企画展・特別展（移動展・巡回展を含む）（２）

年　　度	特別展・企画展等の名称（期間）
平成17（2005）	「女性の着物と装いー髪飾り・櫛と簪と笄とー」（6/11～7/3）、「博物館収蔵資料展－生活用具を中心にー」（8/9～21）、「カストリ雑誌・戦後出版文化の一断面－西潟浩平コレクションー」（8/9～21）、「新・十日町市の宝物－地域に息づく文化財－」（10/8～11/6）、「子ども縄文研究展」（11/20～12/4）
平成18（2006）	「越後の布－暮らしの中の着物－」（7/22～9/10）、「梵字・曼荼羅展」（10/7～22）、「子ども縄文研究展」（11/23～12/6）、「博物館収蔵資料展－きものと資料と孔版画－」（2/16～18）
平成19（2007）	「十日町のやきものー縄文時代草創期、火焔型土器、そして妻有焼へー」（8/25～9/24）、「残された雪国の記憶－雪国の暮らしを写すー」（10/6～11/4）、「出土品が語る新潟の歴史」（財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団共催・11/10～12/9）、「子ども縄文研究展」（12/22～1/14）、「博物館収蔵資料展－軸物を中心にー」（2/16～18）
平成20（2008）	「十日町市の中世遺跡－発掘された集落・居館－」（8/12～9/15）、「岡田紅陽富士写真展」（10/11～26）、「博物館に寄託・寄贈された考古資料」（11/8～24）、「子ども縄文研究展」（12/20～1/12）、「博物館収蔵資料展－着物を中心にー」（2/20～22）、雪文化三館提携事業「雪と人が織りなす文化」（9/13～15・長岡市中央図書館）
平成21（2009）	博物館開館・友の会設立30周年記念「縄文人の道具箱　野首遺跡展」（8/1～9/13）
平成22（2010）	「壊されるモノー土偶・石棒・石皿からみた縄文の祭祀－」（7/31～9/5）、「信濃川上・中流域の縄文時代草創期遺跡」（11/2～28）
平成23（2011）	「縄文のKAZARIー顔を飾る縄文人ー」（7/30～9/11）、「十日町市内遺跡発掘調査速報展」（11/26～3/25）
平成24（2012）	「四大麻布－越後縮・奈良晒・高宮布・越中布の糸と織りー」（7/21～8/19）、「異形の縄文土器」（9/22～11/4）、「昭和の残映－博物館に寄贈された昔の資料－」（2/2～3/3）、「縄文の華　十日町市の国宝・火焔型土器展」（8/3～9/30・星と森の詩美術館）
平成25（2013）	「箱の中の虫－昆虫博士・樋熊清治氏標本コレクションー」（7/20～8/25）、「ビジュアル縄文博物館－縄文人の衣食住、そして土器－」（9/21～11/10）、「子ども縄文研究展2013」（1/18～2/16）
平成26（2014）	博物館開館・友の会設立35周年記念「松代の石仏－里山の祈りと信仰－」（7/19～8/24）、「縄文前期のムラ　赤羽根遺跡－火焔型土器の出現前夜－」（9/27～11/9）、「子ども縄文研究展2014」（1/17～2/15）
平成27（2015）	「カストリ雑誌とその時代－西潟浩平氏コレクションー」（7/25～8/30）、「縄文後期の墓　栗ノ木田遺跡－縄文人の死と弔いー」（10/3～11/8）、「子ども縄文研究展2015」（1/16～2/21）
平成28（2016）	「館蔵資料展　市民からの贈り物」（7/30～8/28）、「土器づくりの考古学」（10/1～11/6）、「子ども縄文研究展2016」（1/14～2/19）
平成29（2017）	「野首遺跡出土品のすべて」（7/8～8/27）、新潟県埋蔵文化財センター巡回展「縄文の造形美－六反田南遺跡－」（7/8～8/27）、「動物の意匠－人と生き物のかかわりー」（9/30～11/5）、雪文化三館提携25周年記念展「雪と生活」（9/14～11/20）、「子ども縄文研究展2017」（1/20～2/18）、「十日町のきもの歴史展」（5/3～4・十じろう）、「野首遺跡出土品展」（11/5・下条中学校）
平成30（2018）	「十日町のきもの歴史展」（5/8～27）、「縄文土器繚乱－十日町市の土器いろいろー」（7/28～8/26）、「機織りのムラ　馬場上遺跡」（9/29～11/4）、「子ども縄文研究展2018」（1/4～2/17）、「十日町のきもの歴史展」（5/3・十じろう）
令和元（2019）	「十日町のきもの歴史展」（5/8～26）、博物館開館・友の会設立40周年記念「博物館と友の会　40年の歩み」（7/27～9/16）、「十日町のきもの歴史展」（5/3・十じろう）
令和２（2020）	新館オープン記念夏季企画展「国宝・笹山遺跡出土深鉢形土器のすべて」（6/1～8/23）、新館オープン記念秋季特別展「縄文の遺産－雪降る縄文と星降る縄文－」（9/26～11/8）、特設展示「昔の道具」（12/19～1/24）、冬季企画展「マジョリカお召と黒絵羽織」（2/13～3/28）
令和３（2021）	新館オープン１周年記念夏季特別展「形をうつすー文化財資料の新たな活用－」（6/1～7/4）、夏季企画展「器の移り変わりー縄文から現代までー」（7/27～8/29）、新館オープン１周年記念秋季特別展「岡本太郎が見て、撮った縄文」（10/2～11/14）、特設展示「昔の道具」（1/4～2/6）、冬季企画展「明石ちぢみと十日町小唄」（2/19～3/27）
令和４（2022）	春季企画展「市民からの贈り物」（4/29～6/5）、夏季企画展①「里山の石仏－松之山の祈りと信仰－」（7/23～8/28）、夏季企画展②雪文化三館30周年記念特別展「モノと芸術とヒトが織りなす雪国文化」（9/6～9/25）、本ノ木・田沢遺跡群国史跡指定３周年記念秋季特別展「縄文時代の始まりを探る」（10/1～11/13）、特設展示「昔の道具」（1/4～1/29）、冬季企画展「雪国の食べものがたり」（2/18～3/26）
令和５（2023）	夏季企画展「縄文の宝石－ヒスイー」（7/22～8/27）、秋季特別展「笑ぅ縄文人－縄文人の喜怒哀楽－」（9/30～11/12）、特設展示「昔の道具」（1/4～1/28）、冬季企画展「究極の雪国建ものがたり」（2/17～3/24）
令和６（2024）	夏季企画展「すべて見せます！「国宝の土器」」（6/1～8/25）、秋季特別展「ＪＡＰＡＮのルーツー雪降る縄文と世界遺産－」（9/28～11/10）、特設展示「昔の道具」（1/4～2/2）、冬季企画展「マイコレクション」（2/15～3/23）

表５　これまでに開催された博物館講座（１）

年　　度	博物館講座のテーマ・日時・演題・講師（敬称略、所属は当時）
昭和 60（1985）	十日町を知る ① 6/12「考古学から見た十日町」阿部恭平（十日町市博物館学芸員）、② 6/28「信濃川と河岸段丘－十日町の地勢－」仲野浩平（津南中学校教諭）、③ 7/9「十日町織物の歴史と文化」佐野良吉（十日町織物工業協同組合参与）、④ 8/30「十日町の文化財と織物工場視察」佐野良吉（同）、⑤ 9/10「子供と民俗行事」駒形懸（川西高校校長）、⑥ 10/8「十日町の雪の記録から（雪の科学－十日町の雪の特徴－）」渡辺成雄（林業試験場十日町試験地主任）、⑦ 11/19「雪処理の科学技術－雪国の今日と明日－」栗山弘（科学技術庁国立防災科学技術センター雪害実験研究所）、⑧ 12/3「学校教育と博物館」竹内俊道（十日町市博物館学芸員）
昭和 61（1986）	十日町を知るⅡ ① 4/22「博物館と学校教育」竹内俊道（十日町市博物館学芸員）、② 5/9「越後縮資料は語る」滝沢秀一（十日町市博物館調査研究員）、③ 5/21「十日町の城跡」丸山克己（十日町市史編さん室主査）、④ 6/10「十日町織物の歴史と現況－織物工場視察－」佐野良吉（十日町織物工業協同組合参与）、⑤ 7/9「信濃川の水害と治水」須藤重夫（十日町市史編さん委員）、⑥ 8/29「秋山の民具と河岸段丘－津南方面視察－」仲野浩平（津南中学校教諭）、⑦ 9/4「昆虫の世界」滝沢伸介（日本アジア虫の会）、⑧ 11/5「雪国の生活　今と昔」渡辺成雄（前林業試験場十日町試験地主任十日町）・駒形懸（川西高校校長）・星名甲子郎（雪と生活研究会幹事長）
昭和 62（1987）	自分たちの住む町を知ろう ① 6/27「武士の戦いと日常（上杉時代の妻有）－城館跡を訪ねてⅠ－」丸山克己（十日町市史編さん室主査）、② 7/11「新田一族の進出と妻有地方の中世」佐野良吉（十日町織物工業協同組合参与）、③ 7/25「遺跡が語る大昔のくらし－原始から古代へ－」大島伊一（十日町市文化財保護審議会委員）、④ 8/1「幕藩体制と妻有の村々」須藤重夫（十日町市史編さん委員会近世史部会長）、⑤ 8/8「妻有の大地はどのようにしてできたか－信濃川と河岸段丘の形成－」仲野浩平（津南中学校教諭）、⑥ 8/29「村と庄屋と庶民たち」上村政基（十日町市史編さん委員会近・現代史部会長）、⑦ 9/5「大井田氏とその周辺－城館跡を訪ねてⅡ－」佐野良吉（十日町市史編さん委員会副委員長）・丸山克己（十日町市史編さん室主査）、⑧ 9/19「会津戦争と妻有の人々」金子幸作（川西町教育委員長）
昭和 63（1988）	妻有・十日町地方の心をさぐる ① 5/14「自然の中の神々－自然と人々－」桜井徳太郎（十日町市史監修者・駒沢大学学長）、② 5/21「妻有地方の野仏たち－人々の願い①－」上村政基（十日町市史編さん委員・文化財保護審議会委員）、③ 5/28「妻有地方への仏教の広がり－人々の願い②－」竹内道雄（十日町市史編さん委員長・愛知学院大学教授）、④ 6/11「村の神さま－人々の願い③－」駒形懸（十日町市史編さん委員・文化財保護審議会委員）、⑤ 6/18「村の中の相互扶助－暮らしと助合い①－」滝沢秀一（日本民俗学会会員・十日町市史編さん調査員）、⑥ 6/25「飢餓の中の救世主－暮らしと助合い②－」本山幸一（十日町市史編さん調査員・中越教育事務所指導主事）、⑦ 7/2「妻有地方の教育のあけぼの－教育と文化①－」佐野良吉（十日町市史編さん副委員長・文化財保護審議会委員）、⑧ 7/9「戦後の文化を育んだ人々－教育と文化②－」田村喜一（十日町市博物館協議会副委員長･市史編さん調査員）
平成元（1989）	妻有の人物史Ⅰ ① 5/27「坂下門外で斃れた勤皇の志士　河本杜太郎（正安）」佐野良吉（十日町市史編さん副委員長・文化財保護審議会委員）、② 6/3「諏訪山の天狗が庶民の悩みを代弁　服部泰庵」上村政基（十日町市史編さん委員・文化財保護審議会委員）、③ 6/24「麻から絹へ、十日町織物再生の功労者　宮本茂十郎」滝沢栄輔（十日町市博物館協議会委員長･市史編さん調査員）、④ 7/8「江戸の名医、現代漢方医学の祖　尾台良作（榕堂）」須藤重夫（十日町市史編さん委員）、⑤ 7/22「学問振興と人材育成に尽くした教育者　高橋茂一郎（翠村）」田村喜一（十日町市文化財保護審議会委員・市史編さん調査員）
平成２（1990）	妻有の人物史Ⅱ ① 7/14「十日町織物の近代化に尽くした人々　根津五郎右衛門・蕪木八郎右衛門」佐野良吉（十日町市史編さん副委員長・文化財保護審議会委員）、② 7/21「多くの偉材を育てた学徳兼備の高僧惟寛和尚をとりまく人々」渡辺賢一（円通寺住職）、③ 7/28「江戸相撲の名行司木村瀬平と幕末の相撲界」田村喜一（十日町市文化財保護審議会委員・市史編さん委員）、④ 8/4「日本三竹の１人と称された竹画の巨匠木村雪翁と大肝煎・関口家」上村政基（十日町市文化財保護審議会委員・市史編さん委員）、⑤ 8/11「近世妻有の俳諧の系譜をたどる　根津桃路・上村山之・青山幽嘯」須藤重夫（十日町市史編さん委員）
平成３（1991）	時間（とき）の軌跡をたずねて ① 7/13「中世編　戦乱と武士（もののふ）たち－妻有の中世－」山田邦明（東京大学史料編纂所所員）、② 7/20「古代編　古代史のなかの越後と妻有」小林昌二（新潟大学人文学部教授）、③ 7/28「原始編　縄文の生活様式－適応と創造－」渡辺誠（名古屋大学文学部教授）
平成４（1992）	雪の中の暮らしを考える ① 8/22「雪の科学と雪害の防止」中村勉（長岡雪氷防災研究所所長）、② 8/29「雪国の風土と文化」高橋実（小千谷高校教諭）、③ 9/5「雪とともに生きる暮らし」鈴木哲（新潟大学工学部教授）
平成５（1993）	戦国乱世の人物像 ① 8/7「戦国時代の妻有」山田邦明（東京大学史料編纂所所員）、② 8/14「描かれた中世－洛中洛外図の中の人々－」石田尚豊（聖徳大学教授）、③ 8/21「中世越後の豪族たち」阿部洋輔（新発田高校教諭）、④ 8/28「戦国大名とはなんだったのか」藤木久志（立教大学教授）
平成６（1994）	絵図面が語る郷土の歴史 ① 6/4「地図や絵図から歴史を読む」青山宏夫（新潟大学助教授）、② 6/11「絵図面に見る山の論争」木村秀彦（柏崎農業高校・高柳分校教諭）、③ 6/18「村絵図から見た河岸段丘の開発」松永靖夫（元三条高校教諭）

表６　これまでに開催された博物館講座（２）

年　　度	博物館講座のテーマ・日時・演題・講師（敬称略、所属は当時）
平成７（1995）	太平記からの贈物－信濃川中流域の中世－ Ⅰ学習ツアー　6/8～9「越後から鎌倉へ－新田義貞の鎌倉攻めを追う－」佐野良吉（十日町市史編さん委員）、Ⅱ史跡探訪　7/22「関東への道」丸山克己（十日町市史編さん室室長補佐）、Ⅲ講座（講義）　① 8/5「越後の新田一族－その活躍と悲劇」赤澤計真（新潟大学人文学部教授）、② 8/12「中世の武士（もののふ）たち－戦いのありさま」山田邦明（東京大学史料編纂所助教授）、③ 8/19「中世の精神世界へ①－佛像・祈りのかたち－」西川新次（慶應義塾大学名誉教授）、④ 8/26「中世の精神世界へ②－念仏・遊行の聖と民衆－」大橋俊雄（日本文化研究所講師）
平成８（1996）	縄文の技とこころ ① 7/14「縄文からのメッセージ－魅惑の真脇びと－」加藤三千雄（能都町真脇遺跡展示室）、② 7/28「縄文心象－日蝕土器の系譜－」武居幸重（諏訪縄文文化研究会）、③ 8/11「縄文生活の再現－実験考古学入門－」楠本政助（石巻考古学研究所）、④ 8/25「縄文人の共同性」後藤和民（創価大学教授）
平成９（1997）	十日町市史を読むⅠ－江戸時代の社会と人々－ ① 9/13「村の掟（おきて）－村決でみる盗みへの制裁－」本田雄二（長岡高校教諭）、② 9/20「善光寺街道と松之山街道」桑原孝（十日町市史編さん委員）、③ 9/27「縮問屋と奉公人」杉本耕一（新潟高校教諭）、④ 10/4「妻有俳諧の先駆者たち－上村山之と根津桃路－」須藤重夫（十日町市文化財保護審議会委員）、⑤ 10/11「飢饉と村の生活－農民たちの危機管理－」本山幸一（十日町市史編さん委員）、⑥ 10/18「日記にみる農家の一年」松永靖夫（農学博士）、⑦ 10/25「山の利用と紛争－六箇村の入会－」木村秀彦（堀之内高校教諭）
平成 10（1998）	十日町市史を読むⅡ－近・現代の諸相－ ① 7/25「自由民権運動と妻有の風土」本間恂一（新潟県政記念館館長）、② 8/1「十日町産地は大火の危機をどのように克服したか－染織学校の設立と中村喜一郎先生－」佐野良吉（十日町市文化財保護審議会委員）、③ 8/8「ほくほく線への長い道のり－鉄道誘致運動の苦闘」上村政基（十日町市文化財保護審議会委員）、④ 8/22「雪国のこどもたち－わらべ歳時記－」駒形懇（新潟県民俗学会会長）、⑤ 8/29「娯楽の王様・映画と若者」田村喜一（十日町市文化財保護審議会委員）
平成 11（1999）	十日町市史を読むⅢ－原始・古代・中世の十日町－ ① 7/24「火焔土器の時代－笹山遺跡を中心に－」小熊博史（長岡市立科学博物館）、② 7/31「古代の人々のくらし」高橋勉（新井市教育委員会）、③ 8/7「越後の中世考古学と妻有郷の遺跡」鶴巻康志（新発田市教育委員会）
平成 12（2000）	縄文研究最前線・縄文時代はここまでみえてきた－現代人のための縄文講座－ ① 7/29「縄文人の住環境－縄文人の住居を調べる－」荒川隆史（財・新潟県埋蔵文化財調査事業団主任調査員）、② 8/5「縄文時代の生活復元－縄文人の暮らしを見つめる－」渡辺裕之（新潟県立歴史博物館主任学芸員）、③ 8/12「縄文世界の精神風土－縄文の記憶を追って－」原田昌幸（文化庁美術工芸課文化財調査官）、④ 8/19「縄文人の交流と交易－奥三面から見えてきたこと－」高橋保雄（朝日村奥三面遺跡調査室係長）
平成 13（2001）	モノと暮らしの知恵を学ぶ－道具と技術を考える－ ① 7/28「石の利用法－石器と石製品－」前山精明（巻町教育委員会学芸員）、② 8/4「民具と道具」久保禎子（一宮市博物館学芸員）、③ 8/11「縄文時代の道具箱」宮尾亨（新潟県立歴史博物館学芸員）、④ 8/18「縄文の工芸技術」小柴吉男（三島町文化財専門委員）
平成 14（2002）	道・人と地域をつなぐもの－地域と文化の交流を考える－ ① 7/27「善光寺街道をゆく人々」丸山克己（前十日町情報館長）、② 8/3「織物技術の伝播を追って」坂本育男（福井県立博物館学芸員）、③ 8/10「塩の道を歩く」土田孝雄（糸魚川市文化財保護審議会委員）、④ 8/17「海上の道－交易と交流－」藤本強（國學院大學教授）
平成 15（2003）	時の記憶を手がかりに－資料から歴史を読み解く－ ① 7/26「仏像が語りかけるもの－その心とかたち－」川村知行（上越教育大学助教授）、② 8/2「古文書から見えてくること」本井晴信（新潟県立文書館専門文書研究員）、③ 8/9「その後の大井田氏を追って」佐野良吉（新潟県民藝協会会長）、④ 8/23「石佛・石塔の分布は語る－地域の信仰と歴史－」渡辺三四一（柏崎市立博物館学芸員）
平成 16（2004）	地域をつなぐ物語－郷土の歴史と文化を訪ねて－ ① 7/31「中里編　桔梗原の開田－庄屋・村山家の人々－」村山詔平（中里地域開発㈱マネージャー）、② 8/7「十日町編　縮問屋の台所事情」丸山克己（十日町市文化財保護審議会委員）、③ 8/21「川西編　板碑は語る－中世の世界－」千々和到（國學院大學教授）、④ 8/28「松代・松之山編　松代・松之山の歴史散歩」鈴木栄太郎（上越市史編さん室専門員）
平成 17（2005）	地域をつなぐ物語Ⅱ－郷土の歴史と文化を訪ねて－ ① 7/23「新市域の自然と景観－この素晴らしき大地－」井上信夫（十日町市文化財保護審議会委員）、② 7/30「新市域の街道と山城－古い歴史を刻む大地－」丸山克己（十日町市文化財保護審議会委員）、③ 8/6「川西・中里の文化財－現地見学－」星名寔（十日町市文化財保護審議会委員）、④ 8/20「松代・松之山の文化財－現地見学－」鈴木栄太郎（十日町市文化財保護審議会委員）
平成 18（2006）	災害の歴史から郷土を学ぶ ① 7/29「松之山の地すべり－大地が動く－」村山悦夫（松之山教育事務所社会教育指導員）、② 8/5「十日町の大火始末記－焦土から立ち上がる－」佐野良吉（郷土史研究家）、③ 8/19「日本の大地震と郷土の人々－大地が震える－」須藤重夫（郷土史研究家）

表７　これまでに開催された博物館講座（３）

年　　度	博物館講座のテーマ・日時・演題・講師（敬称略、所属は当時）
平成 19（2007）	魚沼を学ぶ ① 7/21「魚沼の文化交流を探る－鈴木牧之の交友から－」貝瀬香（鈴木牧之記念館学芸員）、② 7/28「白の世界に魅せられて－富岡惣一郎と魚沼－」高石真理子（トミオカホワイト美術館学芸員）、③ 8/4「魚沼の大地と火焔型土器－故郷の縄文時代－」石原正敏（十日町市博物館学芸員）
平成 20（2008）	魚沼を学ぶⅡ ① 7/19「原始の魚沼－縄文時代を中心に－」石原正敏（十日町市教育委員会）、② 7/26「古代の魚沼－古墳時代を中心に－」安立聡（南魚沼市教育委員会）、③ 8/2「中世の魚沼－魚沼地方の中世城館跡の特徴－」鳴海忠夫（新潟県考古学会会員）、④ 8/9「魚沼楽（学）のススメ」佐藤雅一（津南町教育委員会）
平成 21（2009）	大河ドラマ「天地人」を学ぶ ① 7/4「考古学的に見た坂戸城跡－居館跡を中心として－」藤原敏秀（南魚沼市教育委員会）、② 7/11「史料から探る直江兼続の妻おせん」田中洋史（長岡市立中央図書館文書資料室）、③ 7/18「会津 120 万石と「直江状」」福原圭一（上越市総務課公文書館準備室）
平成 22（2010）	新潟県の考古学最前線 ① 7/3「新潟県の縄文時代遺跡－近年の発掘調査成果を中心に－」渡辺裕之（新潟県教育庁文化行政課）、② 7/10「弥生時代研究の現在（いま）」古澤妥史（阿賀野市教育委員会生涯学習課）、③ 7/17「越後で古墳が造られたころ－魚沼地方の古墳人（びと）の暮らし－」尾崎高宏（財・新潟県埋蔵文化財調査事業団） 考古資料からみた十日町市の歴史 ① 9/18「縄文時代①　遺跡の調査からわかる縄文人のくらし－前・中期を中心に－」石原正敏（十日町市博物館学芸員）、② 10/2「中世　十日町に武士がいたころ－中世の人々の暮らし－」菅沼亘（十日町市博物館学芸員）、③ 10/16「縄文時代②　土の器を作り始めた頃の十日町－久保寺南遺跡を中心に佛像・祈り－」笠井洋祐（十日町市博物館学芸員）
平成 23（2011）	新潟県の考古学最前線Ⅱ ① 7/2「発掘が語る古代の越後・佐渡」春日真実（財・新潟県埋蔵文化財調査事業団）、② 7/9「新潟平野の舟運から古代・中世の流通を復元する－近年の研究成果から－」鶴巻康志（新発田市教育委員会生涯学習課）、③ 7/16「越後における肥前陶磁器の流通」安藤正美（見附市教育委員会教育総務課）
平成 24（2012）	郷土の遺産Ⅰ　越後縮 ① 6/16「越後縮の歴史」竹内俊道（前十日町市博物館長）、② 6/23「御用縮の世界－受注から納品まで－」丸山克己（十日町市文化財保護審議会委員）、③ 6/30「越後縮と江戸時代の麻布産地」吉田真一郎（近世麻布研究所）
平成 25（2013）	郷土の遺産Ⅱ　自然 ① 6/15「段丘に記録されている自然災害を考える」卜部厚志（新潟大学災害･復興科学研究所准教授）、② 6/22「雪里・十日町市の特徴的な昆虫たち」鶴智之（越後松之山森の学校キョロロ研究員）、③ 6/29「多雪地の植物たちの多様な生き方とそのめぐみ」小林誠（越後松之山森の学校キョロロ研究員）
平成 26（2014）	郷土の遺産Ⅲ　石仏 ① 6/14「下越の石仏と民俗行事」大楽和正（新潟県立歴史博物館研究員）、② 6/21「中越ぶらり石仏探訪－ぶらり出かけ、めぐりあった路傍の石仏あれこれ－」桑原和位（つまり石仏の会会員）、③ 6/28「大光寺石と石仏」大坪晃（新潟県石仏の会会員）
平成 27（2015）	郷土の遺産Ⅳ　火焔型土器 ① 6/13「科学の目で見る火炎土器」宮内信雄（十日町市博物館調査研究員）、② 6/20「火焔型土器のつくり方」宮尾亨（新潟県立歴史博物館専門研究員）、③ 6/27「美術から見た縄文土器－火焔型土器の登場－」鈴木希帆（東京国立博物館アソシエイトフェロー）
平成 28（2016）	郷土の遺産Ⅴ　野首遺跡土器の魅力 ① 6/11「千曲川流域の土器のお手本－長野県から見た野首遺跡出土土器－」寺内隆夫（長野県立歴史館上席学芸員）、② 6/18「火炎土器と野首遺跡」寺﨑裕助（新潟県考古学会会長）、③ 6/25「利根川上流域から見た野首遺跡中期土器群」山口逸弘（公財・群馬県埋蔵文化財調査事業団上席専門員）
平成 29（2017）	郷土の遺産Ⅵ　雪 ① 6/10「北越雪譜を著した鈴木牧之」貝瀬香（南魚沼市図書館）、② 6/17「北越雪譜に見る雪国のくらし」笛木孝雄（南魚沼市文化財保護審議会会長）、③ 6/24「雪国の行事と食文化」大楽和正（新潟県立歴史博物館主任研究員）
平成 30（2018）	郷土の遺産Ⅶ　信濃川 ① 6/9「信濃川と旧石器・縄文人の関わりについて」佐藤信之（津南町農と縄文の体験実習館なじょもん）、② 6/16「信濃川の河岸段丘－変動する大地の証拠－」竹之内耕（フォッサマグナミュージアム）、③ 6/23「信濃川の木造船について」森行人（新潟市歴史博物館みなとぴあ）
令和元（2019）	郷土の遺産Ⅷ　編布と織布 ① 6/15「奥会津昭和村のカラムシ栽培－日本各地と台湾の事例－」菅家博昭（昭和村文化財保護審議会委員長）、② 6/22「縄文時代の編布－織布以前を考える－」松永篤知（金沢大学資料館特任教授）、③ 6/29「上杉謙信・景勝と青苧」福原圭一（上越市公文書センター上席学芸員）

表８　これまでに開催された博物館講座（４）

年　　度	博物館講座のテーマ・日時・演題・講師（敬称略、所属は当時）
令和２（2020）	新型コロナウイルス感染症拡大のため中止
令和３（2021）	縄文を学ぶ ① 8/7「縄文造形を楽しむ－縄文時代の社会交流－」井出浩正（東京国立博物館 教育講座室長）、② 8/21「土器から縄文食を探る」宮内信雄（東京大学総合研究博物館 学術専門職員）、③ 8/28「土器の出現と縄文時代のはじまり」堤　隆（明治大学黒曜石研究センター 客員研究員）
令和４（2022）	究極の雪国を学ぶ ① 6/4「食から見る雪国の暮らし」大楽和正（新潟県立歴史博物館 主任研究員）、② 6/21「防寒着としての角巻」岩野笙子（新潟県民俗学会 理事）、③ 7/2「雪国の建築」平山育男（長岡造形大学 教授）
令和５（2023）	魚沼の歴史を学ぶ ① 6/10「歴史の道 八十里越」渡部浩二（新潟県立歴史博物館 専門研究員）、② 6/17「魚沼の狩猟」鈴木秋彦（新潟県民俗学会 理事）、③ 6/24「発掘調査成果からみた魚沼地域の古代について」春日真実（新潟県埋蔵文化財調査事業団 専門調査員）
令和６（2024）	北越雪譜を学ぶ ① 7/6「北越雪譜の怪異」髙橋郁丸（新潟妖怪研究所 所長）、② 7/13「北越雪譜を学ぶ」貝瀬香（鈴木牧之記念館 学芸員）

表９　分じろう まちの文化歴史コーナー HAKKAKE の展示（2016 ～ 2024 年度）

年　　度	HAKAKKE の展示（期間）
平成 28（2016）	「国宝・火焔型土器№.１レプリカ」（4/ 下～ 6/3）、「国宝・火焔型土器№.５」（6/4 ～ 6/5）、「越能山都登」（6/6 ～ 7/1）、「長徳寺板碑」（7/2 ～ 10/3）、「栃倉式土器」（10/5 ～ 11/7）、「中島遺跡出土品その１」（11/9 ～ 2/13）、「中島遺跡出土品その２」（2/15 ～ 4/5）
平成 29（2017）	「中島遺跡出土土器」（～ 5/2）、国宝・笹山遺跡出土品（5/3）、「中島遺跡出土土器」（5/4 ～ 5/29）、「十日町織物歴代見本帳」（5/31 ～ 7/31）、「縄文人の巨大ピアス－樽沢開田遺跡出土品－」（8/2 ～ 9/22）、「国宝・笹山遺跡出土品」（9/23 ～ 9/24）、「中里地域の釜神さま」（9/25 ～ 11/27）、「チンコロと節季市」（11/29 ～ 1/28）、「カンジキ・スカリー十日町の積雪期用具－」（1/31 ～ 3/26）、「茂十郎の透綾－宮本茂十郎手織の透綾（絹縮）裂地－」（3/28 ～）
平成 30（2018）	「茂十郎の透綾－宮本茂十郎手織の透綾（絹縮）裂地－」（～ 5/2）、「国宝・火焔型土器№.５」（5/3）、「国宝・火焔型土器№.１　高精細レプリカ」（5/4 ～ 5/6）、「茂十郎の透綾－宮本茂十郎手織の透綾（絹縮）裂地－」（5/8 ～ 5/28）、「威信の石槍－向田遺跡出土品－」（5/30 ～ 8/6）、「ツク（マブシ）とツク折り」（8/8 ～ 10/1）、「その硯は誰のものか－伊達八幡館跡出土品－」（10/3 ～ 12/3）、「フクベ（夕顔瓢）－十日町の積雪期用具－」（12/5 ～ 2/4）、「ワダラ」（2/6 ～ 4/1）
令和元（2019）	「清田山発見のヒシナイイワシ化石」（4/3 ～ 5/2）、「国宝・火焔型土器№.５」（5/3）、「清田山発見のヒシナイイワシ化石」（5/4 ～ 6/3）、「十日町市最古の狩猟具」（6/5 ～ 8/5）、「十日町市最古の文字」（8/7 ～ 10/7）、「弥生の小壺」（10/9 ～ 12/9）、「国宝・火焔型土器№.６」（12/10）、「唐津焼」（12/11 ～ 1/9）、「国宝・火焔型土器№.７」（1/10）、「唐津焼」（1/11 ～ 2/14）、「国宝･火焔型土器№.８」（2/15 ～ 2/16）、「中世の貨幣」（2/17 ～ 3/9）、「国宝･火焔型土器№.９」（3/10）、「中世の貨幣」（3/11 ～）
令和２（2020）	「中世の貨幣」（～ 4/9）、「石で作った斧」（4/10 ～ 6/8）、「紡錘車」（6/10 ～ 8/3）、「カルカロドン歯の化石」（8/5 ～ 10/12）、「イッカク（一角）の角」（10/14 ～ 12/7）、「珠洲焼の壺」（12/9 ～ 2/8）、「縄文土器と蓋」（2/10 ～）
令和３（2021）	「縄文土器と蓋」（～ 4/5）、「縄文土器の中に入った縄文土器」（4/7 ～ 6/7）、「古墳時代の器の形」（6/9 ～ 8/2）、「越中富山の置き薬」（8/4 ～ 10/4）、「動物意匠のついた縄文土器」（10/6 ～ 12/6）、「マジョリカお召とマジョリカ陶器」（12/8 ～ 2/7）、「弥生時代の土器」（2/9 ～ 4/4）
令和４（2022）	「国宝・火焔型土器№.９」（5/3）、「着ものがたり－編布と織布－」（5/11 ～ 7/11）、「建ものがたり－雪国建築の知恵－」（7/13 ～ 9/12）、「食べものがたり－食料保存の知恵－」（9/14 ～ 11/14）、「美ものがたり－縄文と古代の美－」（11/16 ～ 1/5）、「まつりものがたり－節季市と雪まつり－」（1/6 ～ 2/27）、「春ものがたり」（3/1 ～ 5/8）
令和５（2023）	「国宝･火焔型土器№.９」（5/3）、「原始の十日町～縄文時代（１）～」（5/10 ～ 7/3）、「原始の十日町～縄文時代（２）～」（7/5 ～ 9/4）、「古代の十日町～古墳時代～」（9/6 ～ 11/6）「古代の十日町～奈良・平安時代～」（11/8 ～ 1/11）、「中世の十日町～鎌倉・南北朝期～」（1/12 ～ 2/26）、「中世の十日町～室町・戦国時代～」（2/28 ～ 5/13）
令和６（2024）	「国宝･火焔型土器№.８」（5/3）、「土の中から見つかったよ～原始の器と道具～－赤羽根遺跡と城之古遺跡－」（5/15 ～ 7/8）、「土の中から見つかったよ～古代の器と道具～－馬場上遺跡と柳木田遺跡－」（7/10 ～ 9/9）、「土の中から見つかったよ～中世の器と道具～－笹山遺跡と水沢館跡」（9/11 ～ 11/11）、「吉田・川西地域の遺跡－樽沢開田遺跡と枡形遺跡－」（11/13 ～ 2/3）、「松代・松之山地域の遺跡－向原遺跡と橋詰居村遺跡－」（2/5 ～ 4/14）

表 10　関連文献リスト（1）

№.	資料名	編集者／発行者	刊行年
1	小坂遺跡　十日町市文化財調査報告１	十日町市教育委員会／同	1961
2	十日町市苗場山麓地域農業開発事業予定区域内遺跡分布調査（第１次）概報	十日町市教育委員会／同	1974
3	十日町市における文化財の調査Ⅰ（昭和48年度）　十日町市文化財調査報告５	十日町市教育委員会・立教大学／十日町市教育委員会	1974
4	十日町市広域パイロット地域内遺跡群調査概報　十日町市文化財調査報告６	十日町市広域パイロット地域内遺跡群調査団／十日町市教育委員会	1975
5	馬場上遺跡　第１次・第２次発掘調査概報　十日町市文化財調査報告７	十日町市教育委員会／同	1975
6	十日町市における文化財の調査Ⅱ（昭和49年度）　十日町市文化財調査報告９	十日町市教育委員会・立教大学／十日町市教育委員会	1976
7	馬場上遺跡　第３次・第４次発掘調査概報　十日町市文化財調査報告10	十日町市教育委員会／同	1976
8	十日町市広域パイロット地域内遺跡群調査概報２　十日町市文化財調査報告11	十日町市広域パイロット地域内遺跡群調査団／十日町市教育委員会	1976
9	十日町市における文化財の調査Ⅲ（昭和50年度）　十日町市文化財調査報告12	十日町市教育委員会・立教大学／十日町市教育委員会	1977
10	十日町市における文化財の調査Ⅳ（昭和51年度）　十日町市文化財調査報告13	十日町市教育委員会・立教大学／十日町市教育委員会	1978
11	つつじ原Ｂ遺跡　十日町市文化財調査報告書14	十日町市教育委員会／同	1979
12	十日町市における文化財の調査Ⅴ（昭和52年度）　十日町市文化財調査報告15	十日町市教育委員会・立教大学／十日町市教育委員会	1979
13	十日町市における文化財の調査Ⅵ（昭和53年度）　十日町市文化財調査報告16	十日町市教育委員会・立教大学／十日町市教育委員会	1980
14	十日町市における文化財の調査Ⅶ（昭和54年度）　十日町市文化財調査報告17	十日町市教育委員会・立教大学／十日町市教育委員会	1981
15	坪野館跡　十日町市文化財調査報告書18	十日町市教育委員会／同	1981
16	十日町市博物館常設展示解説書１　雪	十日町市博物館／同	1981
17	妻有の文化財－十日町・川西・中里・津南－	十日町市博物館／十日町市博物館友の会	1982
18	十日町市博物館常設展示解説書２　信濃川	十日町市博物館／同	1982
19	十日町市博物館常設展示解説書３　織物 生産工程	十日町市博物館／同	1983
20	十日町市博物館常設展示解説書４　織物 歴史	十日町市博物館／同	1984
21	十日町市博物館常設展示解説書別冊　民家	十日町市博物館／同	1987
22	図録　妻有の女衆と縮織り－越後縮の紡織用具及び関連資料－	十日町市博物館／同	1987
23	ガイドブック　十日町市の遺跡	十日町市博物館／同	1988
24	妻有の人物史Ⅰ－先人の生き方に学ぶ－	十日町市博物館／同	1990
25	つまり俳諧と俳人たち	十日町市史編さん室／十日町市博物館	1990
26	妻有の人物史Ⅱ－先人の生き方に学ぶ－	十日町市博物館／同	1991
27	雪国十日町の暮らしと民具－十日町の積雪期用具－	十日町市博物館／同	1992
28	十日町市史　資料編１　自然	十日町市史編さん委員会／十日町市役所	1992
29	十日町市史　資料編３　古代・中世	十日町市史編さん委員会／十日町市役所	1992
30	十日町市史　資料編４　近世１	十日町市史編さん委員会／十日町市役所	1992
31	十日町市史　資料編５　近世２	十日町市史編さん委員会／十日町市役所	1993
32	十日町市史　資料編６　近・現代１	十日町市史編さん委員会／十日町市役所	1993
33	図説越後アンギン	十日町市博物館／同	1994
34	十日町市博物館常設展示案内	十日町市博物館／同	1995
35	十日町市史　資料編７　近・現代２	十日町市史編さん委員会／十日町市役所	1995
36	十日町市史　資料編８　民俗	十日町市史編さん委員会／十日町市役所	1995
37	十日町市史　通史編２　近世１	十日町市史編さん委員会／十日町市役所	1995
38	十日町市史　資料編２　考古	十日町市史編さん委員会／十日町市役所	1996
39	十日町市史　通史編３　近世２	十日町市史編さん委員会／十日町市役所	1996
40	十日町市史　通史編４　近・現代１	十日町市史編さん委員会／十日町市役所	1996
41	縄文の美－火焔土器の系譜－	十日町市博物館／同	1996
42	火焔土器研究の新視点	十日町市博物館／同	1996
43	十日町市史　通史編１　自然・原始・古代・中世	十日町市史編さん委員会／十日町市役所	1997

表 11　関連する文献リスト（2）

№.	資料名	編集者／発行者	出版年
44	十日町市史　通史編５　近・現代２	十日町市史編さん委員会／十日町市役所	1997
45	十日町市史　通史編６　きもの産地・十日町のあゆみ	十日町市史編さん委員会／十日町市役所	1997
46	文化財課年報１	文化財課／十日町市教育委員会	1997
47	妻有のいしぶみ	十日町市博物館友の会妻有のいしぶみ編集委員会／十日町市博物館友の会	1997
48	文化財課年報２	文化財課／十日町市教育委員会	1998
49	文化財課年報３	文化財課／十日町市教育委員会	1999
50	文化財課年報４	文化財課／十日町市教育委員会	2000
51	火焔型土器をめぐる諸問題－笹山遺跡の謎に迫る－	十日町市博物館／同	2000
52	文化財課年報５	文化財課／十日町市教育委員会	2001
53	文化財課年報６	文化財課／十日町市教育委員会	2002
54	雪文化三館提携10周年記念企画　北越雪譜と魚沼の風土	十日町市博物館・鈴木牧之記念館・トミオカホワイト美術館／十日町市博物館友の会	2002
55	文化財課年報７	文化財課／十日町市教育委員会	2003
56	文化財課年報８	文化財課／十日町市教育委員会	2004
57	文化財課年報９	文化財課／十日町市教育委員会	2005
58	文化財課年報10	文化財課／十日町市教育委員会	2006
59	文化財課年報11	文化財課／十日町市教育委員会	2007
60	文化財課年報12	文化財課／十日町市教育委員会	2008
61	文化財課年報13	文化財課／十日町市教育委員会	2011
62	文化財課年報14	文化財課／十日町市教育委員会	2012
63	常設展示ガイド	十日町市博物館／同	2014
64	文化財課年報15	文化財課／十日町市教育委員会	2014
65	三十五周年記念誌　古文書に学ぶ	十日町市博物館友の会古文書研究グループ／十日町市博物館友の会	
66	文化財課年報16	文化財課／十日町市教育委員会	2015
67	十日町市博物館　年報　第１号	十日町市博物館／同	2015
68	文化財課年報17	文化財課／十日町市教育委員会	2016
69	十日町市博物館　年報　第２号	十日町市博物館／同	2016
70	松代のいしぶみ	十日町市博物館友の会松代のいしぶみ編集委員会／十日町市博物館友の会	2016
71	十日町市博物館　年報　第３号	十日町市博物館／同	2017
72	十日町市歴史文化基本構想	文化財課／十日町市	2018
73	十日町市博物館　年報　第４号	十日町市博物館／同	2018
74	十日町市博物館　年報　第５号	十日町市博物館／同	2019
75	国宝　笹山遺跡出土品のすべて（改訂版）	十日町市博物館／同	2020
76	十日町市博物館　要覧	十日町市博物館／同	2020
77	十日町市博物館　年報　第６号	十日町市博物館／同	2020
78	縄文の遺産－雪降る縄文と星降る縄文の競演－	十日町市博物館／同	2020
79	十日町市博物館　年報　第７号	十日町市博物館／同	2021
80	常設展示案内ガイド	十日町市博物館／同	2021
81	田沢・壬遺跡保存活用計画	文化財課／十日町市	2022
82	岡本太郎が見て、撮った縄文	十日町市博物館／同	2022
83	十日町市博物館　年報　第８号	十日町市博物館／同	2022
84	里山の石仏－松之山の祈りと信仰－	十日町市博物館／同	2022
85	縄文時代の始まりを探る	十日町市博物館／同	2022
86	十日町市博物館　年報　第９号	十日町市博物館／同	2023
87	笑ぅ縄文人－縄文人の喜怒哀楽－	十日町市博物館／同	2023
88	十日町市博物館　年報　第10号	十日町市博物館／同	2024
89	十日町市文化財保存活用地域計画	文化財課／十日町市	2024
90	ＪＡＰＡＮのルーツ－雪ふる縄文と世界遺産－	十日町市博物館／同	2024